



## 成道会 12月11日(金)

インドのシッダルタ王子（後のお釈迦様）が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。11日(金)は、幼児組が「良い子になりますように」と成道会の式を行い、み仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心を持ち、『何事にもやる気のある子ども』に育ててくれることを念じています。



## 12月22日(火)

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。

もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満足に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

当園では、22日(火)に4、5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんにいろいろ教えていただきながら、一緒にお餅を丸めたり、つくところを見たりして、楽しく過ごします。



## 生活発表会（幼児組参加）

日時 12月 5日(土)  
9:00~14:30

場所 第二みみょう保育園5階ホール

内容 ◆第一部 9:00~  
3歳児  
◆第二部 10:30~  
4歳児  
◆第三部 13:00~  
5歳児



子どもたちが毎日、劇や、合奏、表現などを楽しく取り組んできました。当日は、様々な姿が見られることと思います。



平成27年

# 12月の園だより

## 「上手なほめ方」

早いもので、もう師走となりました。12月は、生活発表会、お餅つき、クリスマス会と大きな行事が続きます。当園では、まだインフルエンザの発症はありませんが、近隣園で発症があったそうです。体調にはくれぐれも気をつけてあげてください。

さて、園だより等を通じて、「ほめて自己肯定感を養う」ということを言い続けております。子どもは、小さいうちからよいところをよく見て本気で「ほめて」「認めて」あげることが大切であり、そうすれば、子どもの「自信」につながり、自分が好きという「自己肯定感」がうまれます。そして他者に対する「思いやり」も育つと考えています。

言い換えれば、「ほめられない」ということは、自分の存在を否定されたことに等しく、結果、人を愛する事ができにくい子どもに育つと考えています。

一方で、「ほめて伸ばす」という子育てに対し、ほめるだけの子育てでいいのかという反対の意見があるのも事実です。

確かに、「ほめて」ばかりさえすればいいのかといえば、決してそうとは思いません。要は、「よいほめ方」と時には「叱る（しつけ）」こと。また失敗させる経験も大切ではないかと考えます。

誰でもほめられることは気持ちいいものです。しかし、それが極端な「ほめ過ぎ」であると、逆にプライドが高い子どもや、何事に対しても慎重な子どもは、ほめられ続けることに対しプレッシャーを感じて失敗を恐れるようになり、指示待ち症候群になったり、やがては逃げ場を失ってしまって問題行動につながっていくこともあります。

では、どうほめればいいのか？基本的

には、「ほめる子育て」に間違いはありませんが、むやみにほめるのではなく、ほめる時には、結果ではなく、目標に向かって頑張っている姿や、あきらめない気持ちをほめ、達成感を共有することです。また、具体的にほめること、子どもの素直な気持ちをほめることも大切です。

大人がほめるという行為をする場合、時として自分のこうあってほしいという大人の勝手な思いや評価、他者との比較、社会的価値などが込められていることが多いかと思えます。子どもにこうあってほしい、こう育てほしいと願うのは、決していけないことではありませんが、よい、悪いの評価に直結してしまいがちになるのがいけないことだと考えます。

なお、「叱る（しつけ）」ことも必要です。上手に叱ることこそしんどいものではありません。叱り方を一歩間違えると子どもは大人に対し不信感をもち、反抗するようになります。感情むき出しの叱り方や罰を与える叱り方はよくありません。どうして叱られているのかを納得させる叱り方が大切です。そして追い込むような叱り方ではなく、子どもの逃げ道をつくってあげながら考える余裕を与えてあげることが大切です。

上手に「ほめる」とは、その子のあるがままを受入れ、「頑張れ！」より「頑張っているね！」と努力の過程を「認めて」一緒に喜んであげることが大切であり、むしろ、「ほめる」より「認める」ことを優先する事の方がよいかもしれません。「認められる」ということは、ほめられる以上に嬉しいし、よい効果につながると考えます。

## マメ先生が伝える

## 幸せ子育てのコツ

2歳代はイヤイヤ期。自我が芽生え、自己主張を始める時期です。プライドが高く、自分で何でもやりたがります。でも、実際は一人でできないことが多いので葛藤が起こり結果的に「イヤイヤ」になります。

泣いたり、わめいたりしているうちに本人は訳が分からなくなってくることも多く、自分を自分で受け止められない状態が起こります。こんな時、自分の気持ちを理解して「はいはい、そうだね」と丁寧を受け止めてもらう事が大切なのです。その時に必ずしも「イヤイヤ」が止まらなくても、気持ちを受け止めてもらったことで、だんだん自分自身を受け止めていけるようになるのです。ですから単に「わがまま」だからと厳しく叱ってしつけるよりも、子どもに寄り添ったかわりが大切。しかし、ずっとイヤイヤに寄り添っていたら親だって辛くなってしまいます、次のような対処法はいかがでしょう。

### ◎「自分で決めた!」(納得)と思わせる

「どっちがいい?」と子どもに選ばせます。

### ◎目先を変えたり、楽しみな見通しを伝える

イヤイヤ状態になったときは「じゃあお外に行ってみようか?」など目先を変えたり、「お家で大好きなおもちゃがまってるよ」など次の楽しみを伝えます。

### ◎環境を変える

場所を変えることで気持ちがおさまることがあります。ちょっと静かな所で抱きしめて気持ちがおさまるのを待ちましょう。

大豆生田啓友 著 「幸せ子育てのコツ」より

消さないで  
あなたの心の  
注意の火



広島市南消防署  
警防課救助係